生態園観察マップ　＊＊行ってみよう見つけてみよう＊＊　夏編

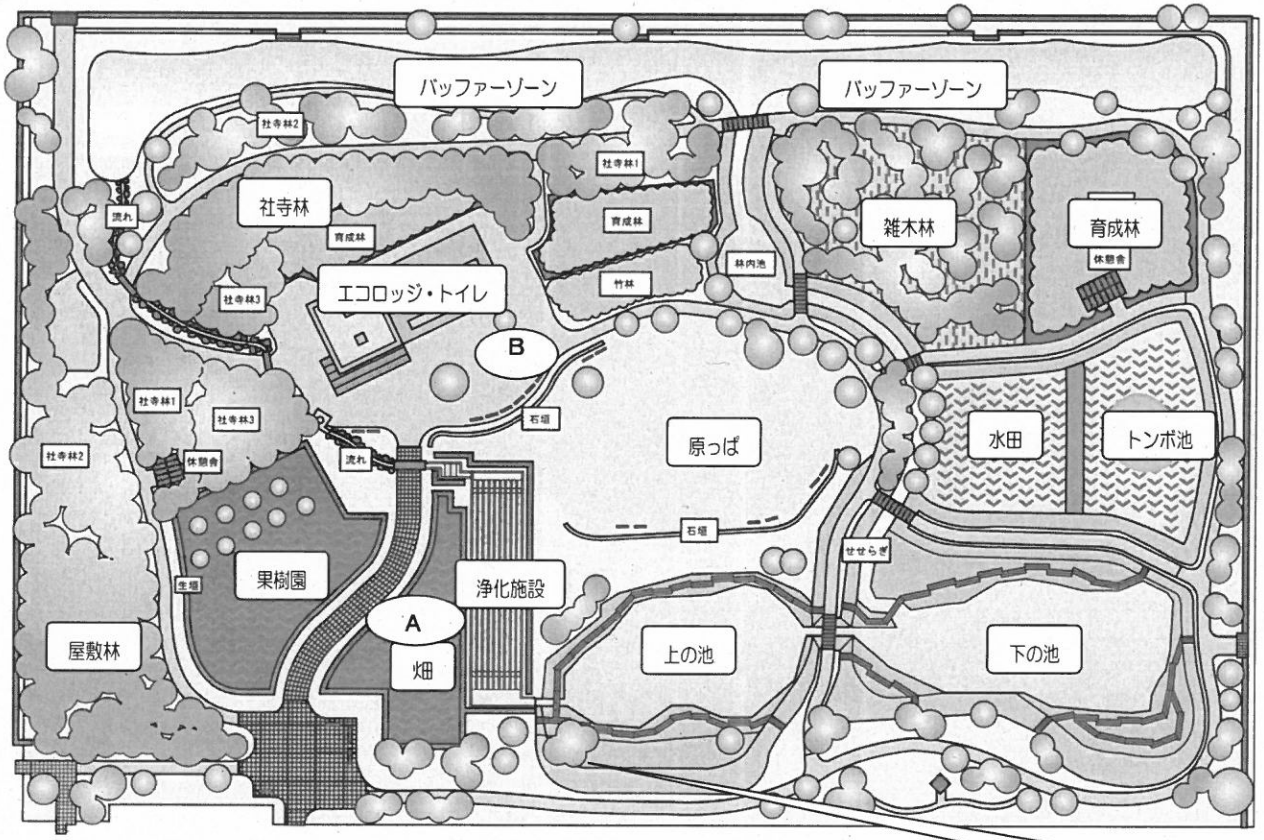
＜＞はおもな地点をあらわしています。

＊ジャコウアゲハ

季節のできごと
- 畑で夏野菜が育っています。ナス、トマト、キュウリ、サトイモなどです。　<A>
- カキノキの果実が小さく、青く実り始めました。　<B>
- 生態園で生まれ、育ったカブトムシ、クワガタが今年はたくさんみられます。来年もみられるように、観察したら生態園に戻しましょう。

＊カブトムシ

コシアキトンボ



＊ブッドレア

ハナゾノツクバネウツギ（アベリア）
／ブッドレア（フサフジウツギ）

ワルナスビ
◎葉や茎のトゲに注意

出入口

アブラゼミ

展望室

＊印は、裏に説明があります。
読んで参考にしてみて下さい。

ウマノスズクサとジャコウアゲハ

7月～9月頃、バッファー池や、下の池の横にラッパ状の不思議な形をした花が咲いています。ウマノスズクサといい、花が馬の首にかける鈴に似ていることから、この名前が付いたという説があります。葉はジャコウアゲハの幼虫の食草です。

ウマノスズクサには有毒成分があり、ジャコウアゲハは幼虫時代にウマノスズクサの葉を食べて、体内に毒を蓄積します。そして、毒のある蝶として、鳥などに食べられるのを防いでいます。

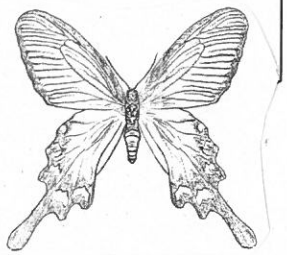
ジャコウアゲハは、夏の季節に園内をゆるやかに低く飛んでいます。捕まえるとジャコウのような香りを出すことから、この名前がついたとされています。（でも触らないようにしましょう）

ジャコウアゲハはオスとメスの翅色が異なります。オスは光沢のある黒色、メスは明るい褐色です。腹部に赤やオレンジの斑紋があります。

ウマノスズクサ

ジャコウアゲハ（オス）

ジャコウアゲハ（メス）



ブットレア（フサフジウツギ）

紫色の花の房を四方に伸ばしているのは、ブットレアです。別名「バタフライ・ブッシュ（蝶の茂み）」といいます。

甘い香りと蜜が、蝶を引きつけます。

和名のフサフジウツギ（房藤空木）も、姿をよく表現していますね。

クヌギに集まる昆虫たち

右の写真は、数年前の夏に生態園で撮影されました。クヌギの木の樹液をカブトムシ（メス）、コガネムシ、アカボシゴマラダが吸いに来ています。カブトムシのオスはいませんね。オスは硬い体と丈夫な角を持ち、闘争心も強いので、他の昆虫を押しのけてしまいます。そのため、オスのいない時に他の昆虫がくるようです。

なお、クヌギの木はスズメバチも大好きですので、観察の際は注意してください。

カブトムシの一生は約1年です。去年の8月頃、朽ちたクヌギの木の下の土の中などに産みつけられた卵は、約10日で幼虫になり、何度か脱皮しながら冬を越します。幼虫の間の餌は腐葉土です。今年の6月～7月頃、約10日をかけて蛹（さなぎ）になり、成虫になります。成虫の寿命は1～2ヶ月しかありません。

カブトムシには耳にあたる器官がありません。そのため鳴くこともありません。体に生えている毛で振動を感じ取っています。主に触角を使って、においの信号を頼りに行動しています。

補足:アカボシゴマダラは平成30年1月に特定外来生物に指定されました。